

# みちのく潮風トレイル Michinoku Coastal Trail

縦断ミニフォーラム 04 in 南三陸

## 登壇者プロフィール

齊藤政喜 (さいとう まさき)

紀行作家。1961年長野県生まれ。1990年にロングトレイルの先駆けである東海自然歩道を踏破する紀行文を雑誌『BE-PAL』に連載。ネパール帰りであり、読者を歩く旅にいざなうことから、山岳ガイドの代名詞であるシェルパのペンネームを編集者につけられる。以降アウトドア雑誌を中心に紀行エッセイを長期連載中。著作は30冊を超える。95年にハケ岳山麓に移住。自らの手で家をつくり、田舎暮らしを楽しんでいる。トレイルの名がつく日本のルートをもっとも多く歩いているバックパッカーであり、年に1度は海外のロングトレイルも旅している。日本ロングトレイル協会のアドバイザーも務め、ラジオやテレビ出演、講演などでロングトレイルの魅力を伝えている。

木村宏 (きむら ひろし)

NPO 法人日本トレッキング協会理事 / NPO 法人日本ロングトレイル協会常務理事 / NPO 法人信越トレイルクラブ理事  
大学卒業後リゾート開発、ホテル経営会社の勤務を経て、長野県に移住、自らの宿泊施設の経営後、日本型 DMO の先駆けとなる信州いいやま観光局の運営を实践。グリーンツーリズム、公共施設運営、着地型商品の造成、観光まちづくり事業に関わる。新幹線飯山駅構内の観光交流拠点整備や、小布施の老舗栗菓子屋の観光施設運営も参画。平成 28 年 4 月から、北海道大学観光学高等研究センター 特任教授

片平享伸 (かたひら たかのぶ)

一般社団法人信州いいやま観光局 なべくら高原・森の家職員 / 特定非営利活動法人信越トレイルクラブ事務局  
法政大学社会学部社会学科卒業後、株式会社エフエム北海道にてプロデューサー・ディレクターとして活躍。2012 年より長野県飯山市に移住。なべくら高原・森の家職員、信越トレイルクラブ事務局員として事務、運営に携わる。  
信越トレイルクラブ事務局では、整備計画、関係団体との調整、ガイド派遣、宿紹介、広報、問い合わせ対応など事務一般を担当。日本山岳ガイド協会 自然ガイドステージ I / NPO アジア職業エコガイド・ウォーキング指導者協会所属

佐々木豊志 (ささき とよし)

一般社団法人くりこま高原自然学校 代表理事 / NPO 法人くりこま高原・地球の暮らしと自然教育研究所 理事長 / NPO 法人日本の森バイオマスネットワーク 理事長 / 青森大学客員教授 / 東北福祉大学特任講師  
筑波大学体育専門学群野外教育体育学を専攻し、東京の企業に勤務の後、くりこま高原に移住し現職。その後、宮城大学大学院事業構想学にて博士号取得。冒険教育・野外教育・環境教育を通じて青少年の「生きる力」を育む教育活動を実践。農的な暮らし、自然と共生する持続可能な豊かな暮らしを創造できる「人」と「社会」づくりに取り組んでいる。  
共著：『日本型環境教育の知恵』[2008 | 小学館]、『ESD 拠点としての自然学校』[20128 | みくに出版]、『環境社会の変化と自然学校の役割』[20188 | みくに出版]、他。

